

ヒューマンエラー体験ソフトを活用した安全教育

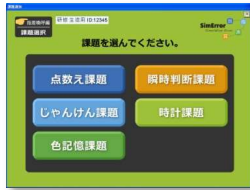
安全心理研究室

- ◆ ヒューマンエラー体験ソフトを用いた集合研修の実施を支援します。
- ◆ 講師養成や教材作成をお手伝いします。

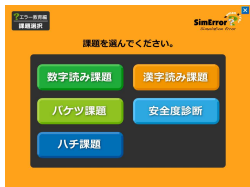
概要 ヒューマンエラー体験ソフトは、指差喚呼の重要性の認識や、エラー防止対策の動機づけを向上させるものです。ソフトを用いた集合研修の講師養成をお手伝いします。また、貴社の事故事例に基づいた教材作成をお手伝いします。

人間科学
実践シリーズ

ヒューマンエラー体験ソフト



指差喚呼編



エラー教育編

+

オーダーメイド
による教材作成

安全研修の講師養成



貴社の事故例と
体験内容との対応

研修の
実施方の指導

図1 ヒューマンエラー体験ソフトを用いた集合研修実施の支援

※特許第4937946号・第6293511号

事故のグループ懇談マニュアル

安全心理研究室

- ◆ 現場社員間のリスク情報の共有を支援します。
- ◆ 職場の安全意識向上を推進します。

概要 ヒヤリハット事例の収集では集まりにくいリスク情報の共有、職場の安全意識向上を促進するための「事故のグループ懇談」の進め方に関するマニュアルです。ファシリテーターの役割やグループ懇談が盛り上がるコツについてご紹介します。

目次	
1. 事故のグループ懇談とは	5
1.1 事故のグループ懇談とは何か	6
1.2 なぜ話し合いが大切なのか？（懇談会の目的）	7
1.3 グループ懇談の種類	10
1.4 このマニュアルの使いかた	11
2. グループ懇談の心構え	13
2.1 まずは心構え	14
2.2 安全の考えかた	15
2.3 失敗はならない（ゼロリスク発想）	16
2.4 事故防止の考えかた	17
3. 事故のグループ懇談のやりかた	19
3.1 さまざまなグループ懇談の種類	20
3.2 準備	22
(1) 事業場の状況を題材にする場合	22
(2) 事故やヒヤリハットを題材にする場合	25
(3) グループ懇談開催の周知	27
(4) ファシリテーターの役割分担	28
3.3 懇談会の中身	34
(1) 事故やヒヤリハットの概要を話し合う	34
(2) 結果の発表を話し合う	36
(3) 作業からの想定	36
4. フィードバック	51
4.1 フィードバックの意味	52
4.2 聞き手側	53
4.3 話し手側	58
5. ファシリテーター	55
5.1 ファシリテーターの心得	55
5.2 ファシリテーターの役割	56
(1) 人数	56
(2) 能力	56
(3) 経験	59
(4) 管理	60
6. 参考図書	61
7. 付録	63

図1 マニュアル目次



図2 グループ懇談のイメージ

■ 鉄道総研では、本マニュアルに則ったグループ懇談を推進するリーダー養成のご相談をお請けできます。